

「第五回 ダイワハウス presents 緑鳳凰杯」

【大会競技規則】

- ① 今大会は『**複合バット禁止**』になります。参加されたチームのは同意したとみなします。
 - ・複合バット→ウレタンなどの複合素材バット（ビヨンド系・カタリストなど）
 - ・わからない場合はメーカーにて確認してください。
- ② 「202年公認野球規則」「全日本軟式野球連盟規定学童の部」を適用する。
- ③ 大会使用球は「ケンコーボール J球」とし、バットは「J S B B」マーク入り「全日本軟式野球連盟公認」の金属に限る。木製はマークなしで構わない。
- ④ ヘルメットは、「J S B B」マーク入りを最低7個用意し、打者、次打者、走者、ベースコーチ（監督・コーチは除く）が使用する事。
- ④ 捕手は、試合中はもちろんシートノック時も「J S B B」マーク入りのプロテクター・レガース・マスク・ヘルメット
及びファールカップを着用する事(控えの捕手も着用を義務付ける)
- ⑤ チーム編成
 - ・選手 25名以内(0~27 31~99) 監督 1名(30) コーチ 2名(28 29)
 - ・代表 スコアラー等 2名以内
 - ・合同チームも参加が可能
 - ・保護者 2名が健康管理(給水を含む)のためベンチに入ることができる。
- ⑥ 指導者も選手と同じユニフォームでベンチに入る。合同チームの場合は極力合わせるが無理な場合は責任を負わないとし参加を認める
- ⑦ 参加チームは所属する選手、監督、コーチ、スコアラー、審判のために傷害保険に加入することを義務づける。試合中のプレーに関わる事故やケガは、各リーグで加入の傷害保険で対応する。
- ⑧ メンバー表は、3部提出する。
- ⑨ シートノックは、5分間とするがゲームの進行状態等によっては行わない場合がある。
- ⑩ ベンチ前でのキャッチボールは禁止する。
- ⑪ 次打者はネクストバッターサークルでヘルメットを着用して待機する。(素振り禁止)
- ⑫ 攻守交代時は全力疾走で行う。
- ⑬ ラフプレー等、危険を伴うプレーは絶対にしてはならない。
- ⑭ 本塁投手間・塁間・両翼
 - ・本塁投手間 16.00 M、塁間 距離：23.00m 、本塁 2 塁間：32.5m 、本塁両翼間：60m 以上（グラウンド状況により変わる）

⑮両翼・中堅を結んで外野のラインが引かれた場合

- ・打球が直接又はグラブや身体に当たってグラウンドに落下することなくホームランラインを超えた場合はホームランとする。
- ・その他の打球（ゴロ等）で超えた場合はエンタイトルツーベースとする。
- ・送球が超えた場合はエンタイトルツーベースとする。

【鳳凰杯大会特別規則】

① 試合時間 試合方法

・90分試合

・6イニング制

・予選ブロックリーグ戦は延長戦・コールドゲームは適用しない

- ・ブロックリーグ戦 順位決定後 1位は決勝トーナメント決定戦に進出。
- ・ブロックリーグ戦 順位決定後 2位は決勝トーナメント決定戦に進出。
- ・ブロックリーグ戦 順位決定後 3位の上位1位・2位は決勝トーナメント決定戦に進出。
- ・勝ち点3点 引き分け1点 敗戦0点 不戦負-1点とし勝ち点の多いチームから順に決定する。
- ・勝ち点と同じ場合は失点数の少ない方を上位とする。
- ・上記でも決まらない場合はブロックの若い組順より決定する。
- ・決勝トーナメント決定戦の配置は順位・勝ち点・失点数により決まる。
- ・上記の16チームは決勝トーナメント決定戦後 勝者は決勝トーナメントに進出。
- ・リーグ戦・決勝トーナメント決定戦・準々決勝では各団手配のグラウンドを利用しその場所のルールを適用する

② 期日

- ・予選ブロックリーグ 11月10日まで※11月4日を目標とする

- ・決勝トーナメント決定戦 11月24日まで

※台風などの天候不順でリーグ戦を消化できない場合は決勝トーナメント決定戦は中止の可能性があります。その場合はリーグ戦1位の7チームは決勝トーナメントへリーグ戦2位チームの上位2チームより大会本部にて抽選し1チーム選ぶか決勝トーナメントまでの期日が担保される場合のみ2位チームの上位4チームにて決定戦を行う

- ・決勝トーナメント 準々決勝 12月7日まで

- ・準決勝・決勝 12月8日 UDトラックス上尾スタジアム

③ コールドゲーム 決勝トーナメント決定戦・決勝トーナメントのみ

- ・3回終了12点差 5回終了7点差。
- ・降雨・日没の場合、5回均等回以降の得点差。4回均等回以前に試合続行不可能な場合は、特別継続試合を行う。尚、コールドゲームは決勝戦でも適用する。

④ 特別延長戦（タイブレーク） 決勝トーナメント決定戦・決勝トーナメントのみ

- ・6回終了時または1時間30分を超えたイニング終了時に同点の場合は、特別延長戦を行う。ただし時間内延長は通常通りの試合内容（7回表裏）で許可する。
- ・無死満塁の状態とする。
- ・打順は継続打順とし、前回最終打者を一塁走者、二、三塁走者は順次前の打者とする。
- ・最大1イニング行い、勝敗が決まらなければ試合終了時に出場していたメンバー9人で抽選を行う。
- ・通常の延長戦と同様、規則によって認められる選手の交代は許される。

⑤コーティシーランナー（臨時代走）

- ・打者走者、走者が負傷などで治療が長引く場合は、球審は相手チームに伝え、打順の前位者（投手は除く）を臨時代走として試合を進行させる。

⑥投手の投球回数制限

- ・1日の投球リミット70球と理想とするがチーム状況により猶予する。しかし選手ファーストの理念は忘れない。
- ・インコース高めには絶対ウエストボールを投じない。もし、投球がそれで頭部に当たったとき審判員が判断した場合は、投手は交代しなければならない。
- ・申告敬遠を導入する。申告敬遠に関しては監督が申告する。この場合、実際に投手が投じた投球のみ投球数にカウントする。

⑦監督またはコーチが、投手のところへ行く回数の制限

- ・野球規則・連盟既定の通り

⑧守備タイム・攻撃タイムの回数制限

- ・守備タイム・攻撃タイムともに1試合3回までとする。

⑨審判に対する規則解釈の確認

- ・監督に限り確認行為を認める。

【 審判員 】

- ① 当該審判で試合を行い主審・塁審分けは両チームで協議をする。
- ② 審判服を着用しなくてもよい。しかしチームのユニフォームで審判はしてはならない。
- ③ 試合を主宰するにあたり、私情を交えることなく、規則を厳格に守らせる責任がある。

【その他】

- ① 勝ちあがった場合、次の試合が棄権となるチームの取り扱い
 - ・雨天順延等により、当該試合に勝利しても次の試合に参加できないチームは、当該試合の当日朝までに大会本部へその旨を申し出る事。その場合、当該試合は親善試合として行い、大会記録は申し出たチームの棄権と同様とする。
- ③ 注意事項
 - ・ユニフォームは正しく着る事。
 - ・合同チームはユニフォームが違うことは認めるが背番号に関しては被らない様に工夫する事。ただしこれも難しければ必ずメンバー表にどのチームの何番か記入すること

- ・ 応援等はメガホンの試用にとどめ、過度の応援は禁止する。
- ・ 試合中における選手または審判員に対する野次や威嚇するような行為は禁止する。違反したときは、審判員または運営委員が退場させることもある。
- ・ グラウンドに唾を吐くことや、その他グラウンドマナーに反する行為や言動は禁止する。
- ・ 指導者からの罵声・暴力は一切禁止。行為が行われた場合はその場で退場し試合を放棄してもらいことがある。審判及び大会運営部で判断する。